

「矢倉海岸探訪と淀川清掃活動」報告

日 時 令和元年 12 月 13 日 (金) 10 時~15 時
集 合 阪神なんば線「出来島」駅 10 時
参加者 22 名 (実習生 2 名)
天 気 晴れ (気温 14℃) 干潮時刻 / 13 時 18 分 (88%)



(①1995. 1. 17 地震による地盤沈下で出現した矢倉干潟。神崎川上流部より湾岸線方面を望む。写真/村瀬)

これまで『自然と環境科』では、長年淀川下流域一帯の《環境保全活動(清掃活動)》を実施して参りましたが、河口部を実際に訪れたことがありません。

しかし淀川と神崎川が出合う河口部一帯は、

- ・ 歴史の流れの中で大きく変化しており
- ・ 経済成長期のおりをもろに受けて
- ・ 過去には自然災害にも多々直面したり
- ・ 今では大阪湾でも貴重な生物多様性に富んだ場となっているという矢倉海岸

を実際に歩き、その現況を実感する<自然と環境科>ならではの探訪日和でした。

10:00 阪神「出来島」駅出発

駅舎のホームは3階にあります。その下を神崎川が流れており、そのさらなる低い位置に出来島市営住宅などがありましたが、一帯は海拔ゼロメートル地帯で少し異様な状況でした。

出来島防潮水門：

神崎川と西島川を結ぶ水門です。分岐しており、堰き止め用の水門です。

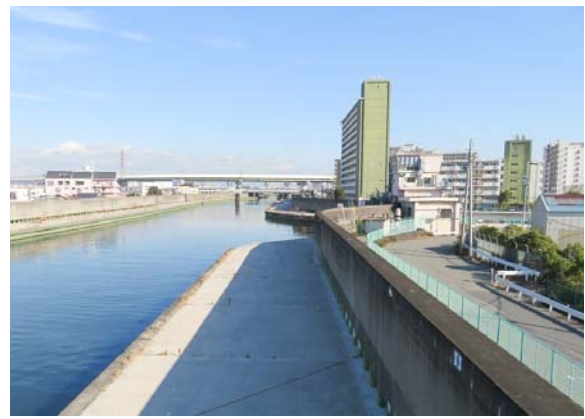
分岐した後は淀川に注ぎますが、その流路は1.49kmで、淀川への出口に西島水門があり、通称「西島運河」とよばれております。

水門下流側にはデッキの渡しがあり、生活用通路になっており、驚きでした。

また監視塔までついた立派な水門でした。



②出来島水門生活用水路

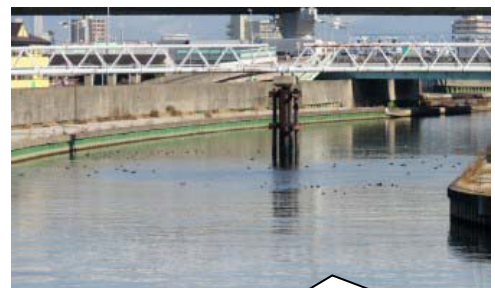


③神崎川下流方面から見た右手は西島川

神崎川（出来島水門下流側橋梁上）にて：

1) カモ類越冬地の様子を観察

20 年程前には、矢倉海岸一帯で約 10,000 羽以上確認できたカモ類が、鳥インフルエンザの影響か、地球温暖化の影響か、何故か近年は激減しておるとのこと。出来島水門付近では、約 150 羽程でした。9 月に米科学誌サイエンス情報にて、『ネオニコ系農薬』が生態系に影響を与えているのでは？と報じておりましたが、大変気になります。



④神崎川出来島水門付近では、カワ・杉バヅロ・スズメ・ジョウビトビ・オオカワ・ムクドリ・オハンを確認。

2) 「中島／外島保養院」跡地の紹介

（神崎川下流、右手の中島地域）

大阪府が明治 42 年に開設したハンセン病療養所は、神崎川河口付近の海拔の低い土地に建てられたため、昭和 9 年 9 月 21 日の室戸台風で保養院の敷地全体が水没し、岡山県邑久郡長島に転移した経緯があります。

- ・風もなく気温は 14°C。
六甲山がとてもきれいに見えておりました。

この後は西島運河沿いに沿って、3 月に閉校した「元大阪府立西淀川高校」や「大野下水処理場」を横目に西島住吉神社に立ち寄りしました。

「西島住吉神社」とは、

元禄 11 (1698) 年九条村の池山新兵衛が 420 両を納めて開墾しました。ここは佃・大和田の対岸より西に位置し西島と名づけ、開墾のおり守護神として住吉四柱大神を勧請されたところでした。



(⑤西島住吉神社前にて歴史にふれる／背景は合同製鐵 KK 関連会社)

11:00

合同製鐵KK（福漁港）を見ながら、淀川右岸堤防（西島水門）へ：
南海トラフ巨大地震による防潮堤・水門などの耐震・耐津波対策を終えたという、神崎川・出来島水門・西島運河・西島水門などを見ながら淀川右岸堤防上に出るが、コンクリート50~60センチ程のかさ上げでは何だか心もとなく感じました。



(⑥かさ上げされた西島運河横にて)

その後は、川幅約1キロ余はあるという対岸（淀川右岸）のユニバーサルスタジオや海遊館、大阪市舞洲ゴミ焼却場、舞洲スラッジセンター（大阪市下水汚泥処理場）のシンボル煙突を見ながら、矢倉海岸をめざしました。

「大阪市環境局の資材置き場」には：
舞洲スラッジセンターより搬入された『汚泥処理後のスラッジ』が、何故か山積みされておりました。（下・写真右）
埋め立て処分や道路などの資材として有効活用するという夢の話を聞いたことがあります
が、10年以上も放置されたままです。再利用基準に満たなかったとか…。
今後どのようになるのか、スラッジの行方が気になりました。



⑦資材置き場にてスラッグ置き場の経緯について



⑧フェンス後ろ側は黒いスラッグの山

矢倉海岸にはタイドプールが5ツ：

犬島(?)から運ばれた巨石でつくられたものとか。

潮の干満に合わせて小さな生き物たちが行き来できるようにと、巨額を投じて作られたものだそうですが、地盤沈下も進み、あまり機能していないようでした。

12:00 「矢倉緑地公園」に到着

江戸時代に京都の矢倉九右衛門により新田開発された場所でした。

矢倉海岸一帯は、私有地であったために、過去には産業廃棄物の埋め立て地など、幾多の経緯を経ましたが、2000年9月には大阪市「矢倉緑地公園」としてオープンしました。

三方を大阪湾、淀川、神崎川に囲まれ、大阪市内に残された貴重な自然海岸です。

12:00~13:00

<昼食>…緑地広場にて。(あづまややトイレあり)

<干潟見学>…各自で干潟見学。潮は2時間ほど前から引き始めており、導流堤も見え、干潟のイメージできました。

対岸には、スズガモ・ホシハジロ・アオサギ・ダイサギ・カワウなどが、羽根を休めており、上空には、ミサゴ・トビが舞っておりました。

ここでは3~4,000羽以上見れたというカモ類の姿は大変少なかったのですが、カンムリカイツブリが約50羽。中でもオオバンが年々数を増しているそうです。

13:00~15:00 淀川清掃活動開始。

ゴミ袋と火バサミを手に、ゴミ拾いをしながら淀川右岸沿いを合鉄南門(西島水門)まで、約1.5kmを歩きました。

堤防下の水際は、一昨年・昨年の台風の影響でしょうか、打ち上げられたプラスチック類や、発泡スチロールなどの細かなものが多かったようです。

ビンや缶類を一袋集めて下さった方もおられました。





(⑨⑩⑪⑫ゴミ拾い作業中のようす)

もう少し先まで行く予定でしたが、ゴミ袋もいっぱいになり、角があたり破れ始めたり…と重いゴミ袋を下げながら、この先5～600m先まで歩くことは不可能なので、収集場所を変更し、西島水門までとしました。

拾い集めたゴミは、国土交通省福島出張所様に収集依頼を提出しておりますので、収集ゴミと一緒に集合写真撮影後、現地解散とし阪神なんば線「福駅」を目指しました。

かつては工場のイメージが強かった西淀川でしたが、運河の風情や監視塔までついた立派な水門や、神社、干潟などを巡り、すっかりイメージが変わりました。

ともかく天候に恵まれ、心地よく歩くことが出来た、何と約15,000歩の初冬の日でした。



2019年12月13日 淀川河川敷清掃

(⑬西島水門横にて。後方は大阪梅田ビル群。)

以上。

担当：3班（企画・記録／村瀬） 写真：大野・樋口

<参考> 矢倉海岸への公共交通機関はありません。阪神なんば線「福駅」または「出来島駅」より約3km余を徒歩のみです。またイベント・観察会等に際しては、私有地、立ち入り禁止区域…などの課題多々あり、内容により、国土交通省淀川福島出張所・大阪市環境局・大阪市建設局・大阪市十三公園事務所・大阪市西淀川区役所・海上保安庁第五管区・大阪府西大阪治水事務所・クボタ・合鐵…などへの届けが必要となります。